

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	専攻科医療秘書専攻		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	AI特論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期	教室名	
担 当 教 員	アイライト	実務経験と その関連資格	C#によるWindows上デスクトップアプリケーションソフトの設計、製造等にPG/SE、MGRとして従事			
《授業科目における学習内容》						
2年次におけるC#に関する講義内容を発展させ、より具体的に各アプリケーションの製造実習を行い、それを通じて論理的思考やコンピュータ内でどのように各種データが処理されているのかを学ぶ事を目的(目標)とする						
《成績評価の方法と基準》						
試験(70%)、出席(20%)、平常点(10%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
作って覚えるVisualC#2022 デスクトップアプリ超入門 秀和システム						
《授業外における学習方法》						
理解度の確認(確認方法は主には講義中の口頭などでの理解度チェック、但し場合により必要に応じて抜き打ちでのテスト等を行う)						
《履修に当たっての留意点》						
プログラミング、及びプログラミング言語の習得に最も必要なのは「何かPC上で動くものを作り上げたい」という意欲を持つこと その意欲を具現化するために本講義のような知識や技術が必要となるという論理になるので、主客転倒しないこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う	
		各コマにおける授業予定	画像を取り扱う事の出来るC#アプリの製造演習(1)			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う	
		各コマにおける授業予定	画像を取り扱う事の出来るC#アプリの製造演習(2)			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う	
		各コマにおける授業予定	画像を取り扱う事の出来るC#アプリの製造演習(3)			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う	
		各コマにおける授業予定	「住所録」アプリ製造演習を通じて、リスト上に並ぶ選択肢を扱う手法を学ぶ(1)			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う	
		各コマにおける授業予定	「住所録」アプリ製造演習を通じて、リスト上に並ぶ選択肢を扱う手法を学ぶ(2)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う
		各コマにおける授業予定	「住所録」アプリ製造演習を通じて、リスト上に並ぶ選択肢を扱う手法を学ぶ(3)		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う
		各コマにおける授業予定	簡単な四則演算アプリを製造し、オブジェクト指向(クラス継承)の実際の利用方法を学ぶ(1)		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う
		各コマにおける授業予定	簡単な四則演算アプリを製造し、オブジェクト指向(クラス継承)の実際の利用方法を学ぶ(2)		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う
		各コマにおける授業予定	簡単な四則演算アプリを製造し、オブジェクト指向(クラス継承)の実際の利用方法を学ぶ(3)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う
		各コマにおける授業予定	ここまでで製造したアプリケーションにおいてエラーとなる入力を行われた際の対応処理(例外対応)を挿入し、その意義を学ぶ(1)		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う
		各コマにおける授業予定	ここまでで製造したアプリケーションにおいてエラーとなる入力を行われた際の対応処理(例外対応)を挿入し、その意義を学ぶ(2)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う
		各コマにおける授業予定	ここまでで製造したアプリケーションにおいてエラーとなる入力を行われた際の対応処理(例外対応)を挿入し、その意義を学ぶ(3)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う
		各コマにおける授業予定	画像ビューア、もしくはテキストエディタを作成し、コンポーネントからはみ出してしまうオブジェクトを表示する際の「見切れ」への対応策について実際の対処を学ぶ(1)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	2年次の講座に引き続き、実際のC#アプリの製造演習が理解できる	作って覚える VisualC#2022	左記教材、及び必要に応じて配布するプリント等の補助資料があればそれらの予習、復習を行う
		各コマにおける授業予定	画像ビューア、もしくはテキストエディタを作成し、コンポーネントからはみ出してしまうオブジェクトを表示する際の「見切れ」への対応策について実際の対処を学ぶ(2)		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	総まとめ(前期試験)が理解できる	作って覚える VisualC#2022	
		各コマにおける授業予定	総まとめ(前期試験)	必要に応じて配布した補助資料	